

FOS 報告書 (2023/12/27)

Harvard University SEAS Bioengineering PhD

河井理雄

mail:michio_kawai@g.harvard.edu

1. はじめに

8月中旬にボストンに到着し、4ヶ月ほど経ちました。Harvard大学のBioengineering専攻PhDとして、日々研究をしたり講義を受けたりしています。

2. 生活

2.1 ボストンの環境

ボストンは空気がとても綺麗で、動物がたくさんいます。特にハーバード構内は夜中の渋谷センター街のネズミくらいリスとウサギがいます。渡米初日の朝目が覚めて、本当にここは日本じゃないのかと思いながら窓の外を見たら七面鳥の群れが疾走していて、異国に来たことを実感しました。ハーバード周辺は街全体が日本の赤レンガ倉庫のような雰囲気になっています。趣があって歴史を感じる街並みで、かなり気に入っています。

2.2 寮

1年目の住居は寮を選びました。寮は思ったより清潔で快適です。水回りの掃除はしなくて良いし日用品は勝手に補充されるし、もうずっとここに住んでいたいと言う気持ちもありますが、生活能力を失いそうなので来年か再来年にはアパートを探して出て行こうと思っています。

私のフロアでは部屋に各人の出身国を代表するジェットコースターの名前が付けられています。イギリスの方は「NEMESIS」、カナダの方は「Leviathan」など、皆カッコいい部屋の名前をつけてもらっています。私の部屋は不本意にも「EEJANAIIKA」と名付けられてしまいました。

2.3 食事

平日昼と夜は寮を選ぶとついてくる食堂のご飯、休日は自分で作って食べています。食堂のご飯はビュッフェ形式で、日毎にテーマがついていて(中華料理・メキシコ料理・イタリアンなど)、プラスでサラダ類とフルーツ類があり栄養バランスはいい感じです。食堂のご飯は最初そんなに美味しくないと思っていましたが、最近ではなんだか愛嬌のある味だと感じていて気に入っています。

休日は自炊しなければならぬので、自炊の腕が少しだけ上がった気がします。渡米初日にホテルで500mlの水が500円だった時はそのまま日本に帰ろうかと思いましたが、ちゃんとしたスーパーで食材を買えば鶏肉、一部の野菜、パスタくらいは日本とそこまで変わらない価格で買えているような気がします。一方で困るのは日本の飲食店やコンビニ弁当のような低価格でいい感じに食事を済ませられる店がほぼ無いため、今日は時間ないから買って済ませようみたいなことはしづらいです。近くのアジア系スーパーで惣菜の量り売りで詰め放題を勘違いして、6000円払って一人で惣菜フードファイトをする羽目になった時が渡米後一番精神的に辛かったです。

3. 研究

コロナで縮小していたラボの規模を大きくしている最中らしく、今年は私を含めて3人PhD学生が入りました。同期はMITから来たポーランド人の方と、シカゴ大学から来たアメリカ人の方で、二人ともとても賢くて親切でいつも助けられています。

ここ 3 ヶ月ぐらいはテーマ決めに励んでいて、先日いくつかのプレリミナルな結果を元に教授から Go サインをいただくことができました。ラボにトップダウン文化があり自分で提案してテーマを決めることは結構難しかったですが、できれば自分のアイデアで進めることにこだわらなかったので、うまく行ってよかったです。

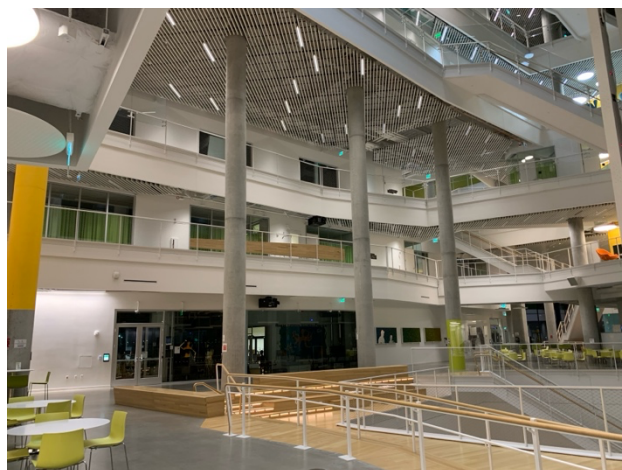
4月から渡米までに行っていた研究で論文を2本書きました。片方は顕微鏡の論文でレビュー中、もう片方は培養皮膚の研究で共著者チェック中となっています。年中には両方サブミットを終えてしまいたかったのですが、諸々忙しくなかなか予定通りにはいきませんでした。皮膚の方は特に気に入っている内容なので希望の論文誌にアクセプトされてくれたら嬉しいです。

一つ困っているのは今の研究室が基本時間をかけて評価の高い論文誌を狙う方針で、かつ論文誌での publish が迫った研究内容しか学会にも出さない主義らしく、細かな実績稼ぎが難しそうなことです。ビッグペーパー狙いは元々望むところなのですが、生物分野で大きな論文を書くのは時間がかかるのでその間学会にも参加できないのは少しモチベーション管理に困りそうです。まあ仕方ないので諸々工夫して研究を進めつつ、今出す予定の論文2本でしばらくは食い繋いでいこうと思います。

4. その他

慌ただしい一年で少し疲れたので年末年始は休もうと思います。そもそも知らなかったのですがラボが年末はシャットダウンして実験できなくなってしまうようなので、来年からはおとなしく日本に帰ろうと思います。

年末は研究室時代、会社時代の先輩とハーバードでの友人とニューヨークに行ってきます。人生初ニューヨークなのでとても楽しみです。



工学系の人たちは 2020 年に建てられた Science Engineering Complex という新しい建物で活動します。地下二階から6階までの吹き抜けになっていて、グランドピアノや卓球台、エアバイクも設置されています。



8月には留学生向けのキャンプに二週間参加しました。いろんな友達ができ楽しかったです。



最近、落書きなどから同じオフィスに濃いめの日本人がいる気配を感じています。